

## Dutch Design meets Bamboo

ダッチ・デザイン・ミーツ・バンブー

# 21世紀のエコ素材、竹のデザインン七変化。

美しく風に揺れる竹林や、日本庭園の鹿苑など、和の趣を象徴する「竹」は近年オランダで、「エコ建材」として注目されている。デルフト工科大学のパブロ・ファン・デル・ルフトも、この東洋の素材がもつ可能性を研究する学者のひとり。環境に打撃を与える熱帯雨林伐採にプレキをかけ、その代わりに強度もあり、成長の速い竹を有効利用しようと提案する。そしてパブロは、ヨーロッパに蔓延する「竹」粗悪で安価な輸入品」というイメージの「掃に挑むべく、プロジェクトを立ち上げて、それを一冊の本にまとめた。

### 次々と生まれる新発想！

本のタイトルは、「ダッチ・デザイン・ミーツ・バンブー」。17組のオランダ人デザイナーを、竹の特性や加工方法を詳しく説明するワークショップに招待して、斬新な竹のプロダクトを制作してもらおうというのが、本の中では、その全作品とワークショップの様子を紹介されて話題となった。このプロジェクトに参加

したのは、テヨ・レミなどベテランのプロダクトデザイナー、またテキスタイルや内装建材に傑出するデザイナー・デュオ「LAMAコンセプト」ら、世界の第一線で活躍する実力派ばかりだ。

「竹は、美しいけれど、同時に多くの限界を持つ難しい素材。このプロジェクトは大きなチャレンジだった」と語るLAMAコンセプト。彼らは、斜めに薄くスライスした竹と合成樹脂を一体化させたタイルをデザインした。「ひと目で竹とわかるけれど、今までに見たことのないものを作りたかった」と、実験的な試みを繰り返して生まれたこの作品は、個性的で美しく、空間のパーティションにも利用できるそうだ。

竹のフォルムがラバー越しに浮き上がる、斬新なヘルト・ヤン・ボット作の天板は、パブロが「最もダッチ・デザインらしい」と感じた作品。ほかにも、竹をシートにして作った棺桶もあり、その柔軟な発想の数々は注目の「バンブー・トレンド」に貴重なヒントを与えてくれる。

www.ideaabooks.nl  
www.zooproducties.nl

# DESIGN SNAP @ Amsterdam

デザインスナップ@アムステルダム 文・ユイ キヨミ 写真・ミナス・ファン・デル・ボーム



1.竹の繊維を砕いて型に流した花瓶はエリザ・ノールドフック作。2.テヨ・レミとレネー・ファンハウゼンが、カーブをつけたバンブー板でイスを制作。3.アムステルダムを拠点に活躍するLAMAコンセプトのイヴォン・ネー・ローリセン(左)とエリック・マンテル(右)。4.「竹は、意外な素材と組み合わせることで新鮮さを増す」と語るLAMAコンセプトのタイルは、本の表紙に採用。5.ヘルト・ヤン・ボット作の天板。ラバー越しに輪切りにした竹の形が見える。6.パブロ・ファン・デル・ルフト著の「ダッチ・デザイン・ミーツ・バンブー」は発売2か国語併記。Zoo Producties社刊、25ユーロ。7.竹に彫刻を施したフレームは、メッチ・フックストラ作。